

**製品名: MSK2 (リン酸化 Thr568) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05044**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	95kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RPS6KA4 RPS6KA4; MSK2; Ribosomal protein S6 kinase alpha-4; S6K-alpha-4; 90 kDa ribosomal
別名	protein S6 kinase 4; Nuclear mitogen- and stress-activated protein kinase 2; Ribosomal protein kinase B; RSKB
遺伝子 ID	8986.0
SwissProt ID	O75676
免疫原	抗血清は、ヒト MSK2 の Thr568 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 531-580

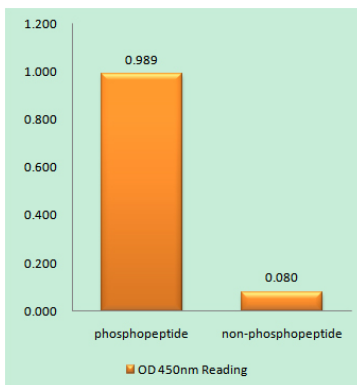
## 背景

リボソームタンパク質 S6 キナーゼ A4 (RPS6KA4) ホモサピエンス この遺伝子は、セリン/スレオニンキナーゼの RSK (リボソーム S6 キナーゼ) ファミリーのメンバーをコードします。このキナーゼは 2 つの非同士のキナーゼ触媒ドメインを含み、CREB1 や ATF1 を含む様々な基質をリン酸化します。コードされているタンパク質はヒストン H3 をリン酸化することで、特定の炎症性遺伝子を制御することもできます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2016 年 1 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、補因子: マグネシウム。、酵素制御: スレオニンおよびセリン残基の複数のリン酸化によって活性化されるようです。 ERK1/2 および p38 キナーゼはこの過程で何らかの役割を果たしている可能性がある。、機能:セリン/スレオニンキナーゼは、成長因子およびストレス誘導性の転写因子 CREB の活性化を媒介する役割を果たしている可能性がある。 TNF に応答した RELA 転写活性の制御に不可欠な役割。 マイトジェン、ストレス刺激、上皮成長因子 (EGF) に応答してヒストン H3 の「Ser-10」をリン酸化して、プロトオンコゲン FOS および JUN (類似性による) を含むいくつかの前初期遺伝子の転写活性化をもたらす。 高移動度グルーブタンパク質 14 (HMG-14) のマイトジェンおよびストレス誘導性のリン酸化を媒介する。、その他:酵素活性には両方のキナーゼドメインの存在が必要である。、類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 S6 キナーゼサブファミリー。、類似性: AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。、類似性: タンパク質キナーゼドメインを 2 つ含む。、サブユニット: 静止細胞において ERK1 または ERK2 と複合体を形成し、分裂促進刺激後に一時的に解離する。また、MAPK14/p38- $\alpha$  と会合する。 活性化 RPS6KA4 は NF- $\kappa$ B p65 サブユニット RELA と会合し、リン酸化を行う。、

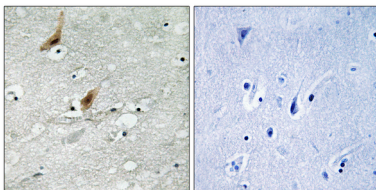
## 研究分野

インスリン受容体; 血管新生を調節する; MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein; B 細胞受容体; AMPK

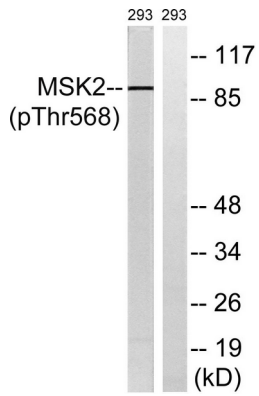
## 画像データ



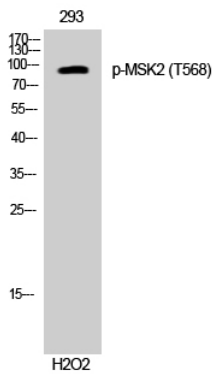
MSK2 (リン酸化 Thr568) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



MSK2 (リン酸化 Thr568) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



293 細胞ライセートを H<sub>2</sub>O<sub>2</sub> 100uM 15 分処理し、MSK2 (リン酸化 Thr568) 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



ホスホ MSK2 (T568) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析。